

親子読書文庫の報告から

●図書館コーナー●

国際児童年にちなみ、子供の時から読書の習慣を」という趣旨のもとに

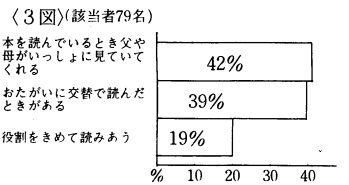
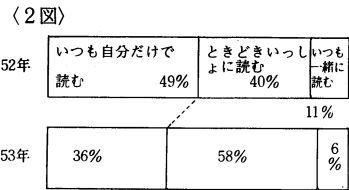
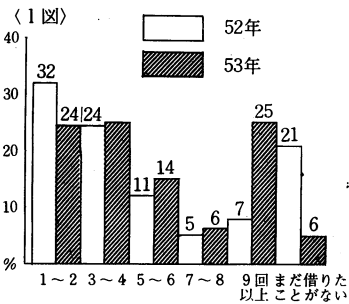
今年には地域文庫、小学校、公民館等二十八か所に文庫を配本した。安達郡白沢村立糠沢小学校（大内巖校長）での実施状況を紹介します。運営の参考にしたい。（五十二年から実施）

〈運用方法と家庭へのPR〉

学校だより特集として文庫設置の目的、運用方法等わかりやすく説明して父兄への呼びかけを行っている。本は正面玄関の壁面に配架して、児童がいづでも利用できるように、クラス担任でない若い先生が利用指導に当たっている。感想文等は児童が自分から書く場合は別として、とにかく親と子がいっしょに読んでほしい。そしてその実践の中から読書のしかたを見出し出して、こうという方法をとっている。

〈利用状況：アンケート調査から〉

(1) 四月から十二月の間に何回借りたかは1図のとおりで、五十二年度と比較べ五十三年はかなり多くなっている。三回以上の利用者は前年度の四十七パーセントから七十一パーセントとなり、九回以上が二十五パーセントと高くなり借りたことがないのは六パーセントと



心強い。読書の時間は各家庭の事情で一定していないが、これもある程度習慣づけたいと学校の指導課題としている。

この報告から見られることは、忙しい学校のカリキュラムの中で、非常に努力されて、私どもが思った以上に運営されていることは心強い。三年間ということでもなしに、もっと長く続けてほしいという声は親たちからあがっていることで、これらについては、図書館と地元の教育委員会がじゅうぶんに話し合っ、本の確保につとめ、この運動の輪を拡げていきたいものである。

ほとんどの児童が利用している。さらに学年別にみると低学年の利用が高く、中学年、高学年の順となっていること。身近に本を置き、いつでも相談に応じる担当者が必要なことは、このことからはっきりかがられる。

(2) 借りた本は父や母といっしょに読むかに対しては、2、3図のようにいつもいっしょに読むは非常に少ないが、ときどきいっしょに読むを合わせると、五十二年五十一パーセント、五十二年六十四パーセントと、親がこの文庫活動に理解を示し、忙しいながらも、子供とともに読書の時間をもつよに努力している姿がうかがわれて、この活動が着実に行われていることを示している。さらに親といっしょに読んだことがあると答えた七十九名について調べて見ると、3図のように、互いに交替で読んだり、役割を決めて読み合ったと答えたものが五十八パーセントで、親子読書本来の目的にそって実行している家庭がふえてきているのは

〈親たちの声：アンケート調査から〉

- (1) 読書の楽しさ
 - 親と子が一冊の本をもとにいろいろな話ができて、子供の今までみられなかった発達ぶりがわかり楽しい。
 - TVにみられない想像力がつく。
- (2) 読めない理由
 - 家事労働等で親がおちつくのは、子供が寝る時刻になったり、夕食後はTVに夢中になり読書にとりかかるのが遅くなることをあげている。
- (3) その他の感想、意見
 - 親といっしょに読めるということ、子供も読むことにハリがあるようで、これからは感想なども、さらに話し合いたい。
 - 初め「いやだなあ」と思っていたが、子供と話し合いの場ができて良いことだと思ふようになった。
 - TVを見る時間が少なくなり、読むことによつて物事に集中するようになったことを喜んでいる。